

活動に十分に見通しをもち、自ら取り組める生徒の育成

—自立活動における活動環境の構造化を通して—

特別研修員 特別支援 河内英恵（特別支援学校教諭）

<生徒の実態>

- ・活動への見通しがもちづらく、集中できなかつたり、取り組めなかつたりすることが多い。
- ・二次的な問題行動が常態化している。

<教師の願い>

- ・活動に見通しをもって自ら取り組んでほしい。
- ・活動に取り組める場面を増やしてほしい。



生徒が自ら取り組めるように、活動環境を構造化してみよう。

実践例 特別支援学校 中学部3年 自立活動「三つの活動をやりとげよう」

【手立て1】見て「分かる」自分で「できる」活動環境の構造化

一つの活動の見通しをもつための構造化



活動の手順に従って教材を配置

順番に取り組めばできそう!



→活動量アップ!
自分なりに工夫する姿

1単位時間の見通しをもつための構造化



箱で活動の数や進み具合を視覚化

一つ終わったぞ。あと二つだ!



→スムーズに次の活動へ取り組む姿

1時間の活動の進め方が分かったよ。自分でできるぞ!



→教師の指示なしで自ら取り組む姿

【手立て2】活動の様子記録・分析

できた時の活動・教室・人的環境条件の記録

活動環境を構造化したら、三つの活動でも自分で取り組むことができた。



記録と段階表を照らし合わせた分析

段階	活動環境条件
8	7に継続して取り組んでいる
7	1時間単位の活動に見通しをもち、自ら取り組んでいる
6	複数の活動に、手順に従って、自ら取り組んでいる

6段階に達しているから、次は7段階を目指してみよう。



目標、活動内容、活動量、活動環境の調整・工夫

時間いっぱい取り組める活動を設定したいな。次は、それぞれの活動量を増やしてみよう。



目指す生徒像

活動に十分に見通しをもち、自ら取り組める生徒

<成果>

- 活動を繰り返す中で、自ら手順や教材・道具の配置を工夫して意欲的に取り組むようになった。
- 活動の記録・分析を生かし、生徒の成長に合わせて適切な活動を設定することができた。

<課題>

- 今後、活動に取り組める場面を他教科へとつなげていくために、自立活動で取り扱う教材を他教科の内容に関連付けて設定したい。